

愛知の博物館

No.58



「ふとった王様」 A BIG FAT KING
ニュージーランド NEW ZEALAND
クリフ・ハースト CLIEF HIRST
7歳・男

この作品は、ニュージーランドの7歳の男の子の作品である。おかざき世界子ども美術博物館では、来館する子どもたちに豊かな国際性を育んでもらうことを目的として、世界の児童画を収集展示しているが、それらの作品はまさに千差万別である。子どもの発達段階というたて糸に、子どもたちをとりまく民族や風土、教育などの様々な要因というよこ糸が組み合わされ、それらの作品は完成されるのである。

この作品も、日本の子どもの作品にはない表現の力強さを持っており、この作品を鑑賞する子どもたちになんらかのインパクトを与えることができるだろう。

(おかざき世界子ども美術博物館 主事 内藤高玲)

目 次

・平成5年度愛知県博物館協会総会報告	2
・「博物館実習受け入れ」調査について	3
・平成4年度自然科学部門研修会報告	6
・平成4年度美術部門研修会報告	7
・新規加盟館紹介	8

平成 5 年度

愛知県博物館協会総会報告

平成 5 年度愛知県博物館協会の総会が、5月21日(金)名古屋市東区主税町の「ちからまち会館」で開催され、参加館55館、92名の出席がありました。以下総会の概略を報告します。

1. 会長挨拶…山田敬二氏（愛知県陶磁資料館館長）
2. 来賓挨拶…近藤泰雄氏（愛知県教育委員会文化財課主査）

3. 表彰…助博物館明治村係長 後藤義雄氏
助日本モンキーセンター
飼育第一担当主任 辻 雅名氏
ヨコタ博物館 加藤公子氏
以上功労賞
前愛知県博物館協会会长 亀井誠治氏
感謝状



4. 新規加盟館紹介

愛知県立芸術大学資料館法隆寺金堂壁
画模写展示館
日本独楽博物館

5. 議事（座長 愛知県博物館協会会长）

(1) 平成 4 年度事業報告及び決算報告について

(イ) 研修会の実施

(A) 愛知県博物館等職員研修会

平成 4 年 9 月 3 日～4 日 半田勤労福祉会館

(B) 部門別研修会

・自然科学部門

平成 5 年 2 月 10 日 豊橋市自然史博物館

・歴史民俗部門

平成 5 年 2 月 17 日 名古屋市博物館

・美術部門

平成 5 年 2 月 25 日 昭和美術館

(ロ) 東海地区博物館連絡協議会平成 4 年度総会参加

平成 4 年 6 月 11 日～12 日 静岡県静岡市

(ハ) 第17回東海三県博物館協会交流研修会

平成 4 年 11 月 26 日～27 日 三重県鳥羽市

(二) 表彰の実施

功労賞 4 名（氏名略）

(ホ) 印刷物の配布

(A) 「おでかけガイドー愛知の博物館」の発行、
春、秋 計 2 回

(B) 協会報「愛知の博物館」の発行、No.56～57

(ハ) 会議

(A) 総会 1 回 (B) 理事会 1 回 (C) 実行委員会 10 回

(D) 30周年記念事業検討委員会 1 回、同検討チー
ム検討会 1 回

(ト) 平成 4 年度新規加盟館の報告（館名略）

(チ) 平成 4 年度収支決算報告（監査報告 昭和美術館）
以上、事務局より説明の後、審議、いずれも承認さ
れました。

(2) 平成 5 年度事業計画及び予算について

(イ) 事業

(A) 愛知県博物館等職員研修会

愛知県教育委員会と共に、博物館関係施設に勤務する職員を対象として開催する。

・期日 平成 5 年 9 月 2 日～3 日

・会場 南設楽郡鳳来町

(B) 部門別研修会

美術部門、歴史民俗部門、自然科学部門

・期日、会場 未定

(C) 東海地区博物館連絡協議会平成 5 年度総会

・期日 平成 5 年 7 月 6 日～7 日

・会場 ルブラン王山（名古屋市）

(D) 第18回東海三県博物館協会交流研修会

・期日 平成 5 年 11 月 25 日～26 日

・会場 豊橋市自然史博物館

(E) 表彰（前記、3 のとおり）

(F) 印刷物の編集・発行

協会報「愛知の博物館」、「おでかけガイド」、「東西南北」、加盟館・園職員録

(ロ) 会議

総会 1 回、理事会 2 回、実行委員会 12 回、30 周年記念事業会議

(ハ) 平成 5 年度予算案

以上、事務局より説明の後、審議、いずれも承認さ
れました。

(3) 愛知県博物館協会設立 30 周年記念事業について

趣旨、事業委員会の構成、対象事業（記念式典・記念講演会・特別表彰・記念誌の発行）、日程等事務局より説明、質疑応答の後、承認されました。

総会終了後、「博物館実習をめぐって」のテーマのもとシンポジウムが開催され、熱意あふれる討議が進められました。

「博物館実習の受け入れ」調査について

1. 調査に至る経過

ここ数年、博物館学の講座を持つ大学が増えてきた。このこと自体は、博物館にとっても喜ばしいことであるが、それにともなって、博物館への館務実習の依頼が急増してきたことで、少し問題が起ってきた。一つは、従来も館務実習を受け入れてきた博物館が、既に受け入れの限界に達し、何らかの対応に迫られていることである。これについては、各館が独自に何らかの制限を加えることによって対処しているのが実状である。今一つは、新たに受け入れることとなった館、特に小規模館における受け入れ対応についてである。実は、館務実習における明確なカリキュラム等は示されておらず、大学は博物館に全面的に「おまかせ」しているのが実体である。これでは、初めて館務実習を受け入れる館の負担が大きく、なかなか受け入れ館が増えないとおもえる。しかし、館務実習を、博物館の使命の一つとしてとらえるならば、より多くの館で、より広く受け入れることが望ましいのは言うまでもない。

これらのことから、愛博協として、まず加盟館の実状を把握するため、アンケート調査を実施することにしたのである。

2. 調査の方法等

アンケート調査は、平成4年度の全加盟館を対象とした。調査項目については、平成4年度に関西博物館連盟(担当 徳川美術館)の実施した調査項目を参考とした。また、独自に実習費の有無についても質問した。

~~~~~

### 「博物館実習の受け入れ」アンケート調査の報告

平成5年5月16日

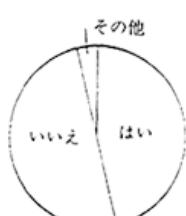
愛知県博物館協会

(担当・愛知県陶磁資料館 浅田員由)

アンケート依頼数 106館

回答数 66館

回答率 62.3%



#### 1. 博物館実習を受け入れていますか。

- (1) はい 31館 46.3%
- (2) いいえ 33館 49.3%
- (3) その他 3館 4.4%

注①東山動植物園は、動物園・植物園が別々に受

け入れている。

②その他は、依頼があれば受け入れる、もしくは検討中の館。

### 2. 何名の実習生を受け入れていますか。

| 学校数   | 人数  |                       |
|-------|-----|-----------------------|
| 1～2校  | 14館 | 1～2人 10館              |
| 3～5校  | 12館 | 3～5人 8館               |
| 6～9校  | 2館  | 6～10人 7館              |
| 10校以上 | 1館  | 11～15人 2館<br>16人以上 3館 |

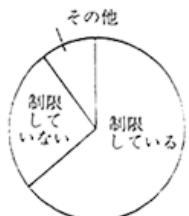
(25人、35人、36人)

### 3. 受け入れ校や人数を制限していますか。

- (1) 制限している 20館 64.5%
- (2) 制限していない 8館 25.8%
- (3) その他 (無回答) 3館 9.7%

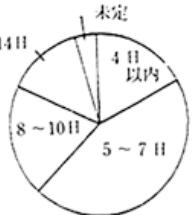
理由 (1) 制限している

- ① スタッフ及び施設に制約がある。
  - ② 実習内容を充実させるため——適正な指導
  - ③ 館の内容にあわせる (歴史専攻、理工系学生etc)
- (2) 制限していない
- ① 申し込みが少ない。



### 4. 実習期間及び時期。

|        |     |       |
|--------|-----|-------|
| 4日以内   | 5館  | 16.1% |
| 5～7日   | 15館 | 48.4% |
| 8～10日  | 5館  | 16.1% |
| 11～14日 | 4館  | 13.0% |
| 未定     | 2館  | 6.4%  |



・受け入れ時期は、大学の夏休みが25館(80%)の他、館の事情にあわせるところが2館ある。

### 5. 出願期間、方法を定めていますか。

- (1) いる 11館 35.5%
- (2) いない 19館 61.3%
- (3) その他 1館 3.2%

◎ 時期・実施日から3ヶ月以前

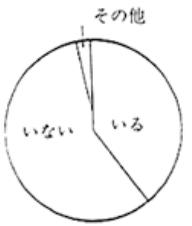
・6月まで

・前年度の2月まで

◎ 方法・大学からの依頼書

・担当教授の紹介

・履歴書及びレポート提出

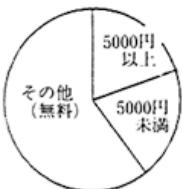


## 6. 実習費はどのくらいですか。

- |             |     |       |
|-------------|-----|-------|
| (1)5,000円以上 | 6館  | 20.0% |
| (2)5,000円未満 | 5館  | 16.7% |
| (3)その他      | 19館 | 63.3% |

注①その他はすべて実習費無料  
(受け取らない)

②館としては実習費を要求していない



## 7. 博物館実習に対してのご意見をお聞かせ下さい。

### 〈受け入れ館状況〉

- ・カリキュラム・実習内容等の基準が不明確で、単位認定に苦慮する。
- ・受け入れの限界をこえている。
- ・実習生の受け入れに、レポート提出等の条件をつける。
- ・普段できない調査等ができる有意義。
- ・実習は大変であるが、館の活動の一つとして位置づけている。

### 〈実習生に対して〉

- ・実習目的をはっきりさせて申し込んではほしい。
- ・資格を取得することのみを考え、職務としての意識に欠けている。
- ・実習館の性格については、事前に勉強しておくべきである。

### 〈大学に対して〉

- ・実習に出るまでに、博物館の基本的なことは学生に理解させてほしい。
- ・学生の専門と対応する博物館で実習できるような配慮が必要。
- ・大学によって、学年や実習日数等が不統一である。

### 〈愛博協に対して〉

- ・他館のカリキュラムや実習内容に対する資料がほしい。
- ・加盟館と大学関係者で話し合う場が必要。

(例：博物館実習検討委員会)

~~~~~

このアンケート調査の結果は、平成5年度の総会で報告し、あわせて、シンポジウムの資料とした。

3. 館務実習の問題点

今回のアンケート調査は、非常に基本的な項目についての調査であったが、多くの問題点が明らかになった。その一、二を個人的見解を混えて述べてみる。

(1) 実習生超過の問題

早くから実習生を受け入れてきた館は、いずれも多

人数を受け入れているが、既にその限界に達している。これに対して、各館は受け入れの制限を行っているが、最近の傾向としては、レポートの提出等、事前の適格審査を行う館が増えてきたことにある。ある意味における質の選別であり、おそらく今後はこうした制限の方法が増えるものとおもわれる。それは、いずれの館においても、(大規模館においてさえ)館務実習を想定した施設や人員を擁しておらず、結果として担当学芸員の非常な負担の上に、実習が成り立っているからである。「単なる資格だけのために、何故こんな苦労をしなければならないのか」といった悲鳴が聞こえてきそうな回答が多かった。しかし、質をクリアしても絶対量の増大は免れないのが現状である。これに対しては、受け入れ館の増大以外には対処できないのではなかろうか。

さいわい、今回のアンケートの中で、今年から受け入れる、あるいは依頼があれば受け入れてもよい、という館がいくつかあった。こうした積極的な館に対して、愛博協がどのように支援していくかが今後の課題といえよう。少なくとも、館務実習先進館のカリキュラムや実習ノウハウなどの情報は、いつでも提供できるようにしたいものである。

(2) 実習内容に対する疑問

実習を依頼する大学は、それぞれ独自のカリキュラムに基いているため、実習内容は、受け入れ館（特にその担当学芸員）の宰領にまかされる部分が大きく、評価するための基準が明確でないことが担当者の最も辛いところである。ましてや大学においては、1年生から実習を認めるところもあって、博物館学等の基本的な分野の習熟度に差がある時などは、担当者泣かせである。これは、大学の要求する実習と受け入れ館が理解している実習のギャップであろうとおもわれる。こうしたことは、大学間で調整されることが望ましいのであるが現状では困難である。

4. 今後の課題

今回のアンケートから、多くの館が基本的には館務実習の受け入れに理解を示していることが感じられた。しかし、実際に受け入れるについては多くの問題があることも明らかになった。なかには、誤解に基づくものや情報の不足からくるものもあり、協会としては早急に情報提供を行いたいと考えているところである。また、特に痛感したのは、博物館と大学の交流の少ないことである。これまで、この両者の交流は、個人的な形では存在していても、館と大学としては無かったのではないかとおもう。アンケートで指摘された問題点のかなりの部分は、両者の交流が進む中で自然と解消されるに違いない。こうしたことから、今回

のアンケート調査を契機に、大学との交流を深めることを提案して、まとめとしたい。

(実行委員 愛知県陶磁器資料館 浅田員由)

夏休み中	18館	1週間未満	5館
7月下旬～8月上旬	10館	1週間	15館
7月下旬	4館	2週間	2館
8月下旬	3館		
その他	2館		

・大伴→館の事業を優先し決める。

・少数→学校や生徒と協議の上で。

展示替えの期間に合わせて。

参考資料

「博物館実習受け入れについて」

調査アンケート集計報告

平成4年11月27日

関西博物館連盟

幹事長館 徳川美術館集計

アンケート依頼 128館

返 答 102館 (79.7%)

1. 博物館実習を受け入れていますか？

- Aいる 64館 (62.7%)
Bいない 32館 (31.4%)
Cその他 6館 (5.9%)

学校数	人数				
1～2校	22館	1～2人	10館	40人代	2館
3～5校	25館	3～5人	10館	50人代	4館
6～9校	10館	6～9人	5館	60人代	1館
10校以上	5館	10人代	17館	70人代	1館
		20人代	10館	160人以上	1館
		30人代	1館		

2. 受け入れ人数や学校等に制限がありますか？

- Aある 41館 (56.9%)
Bない 22館 (30.6%)
Cその他 9館 (12.5%)

その制限方法、根拠は？

- ・地元の学校、学生を優先。
- ・人数の制限→美術館・博物館の業務に支障のない範囲。
- ・1校2名まで、希望理由のレポート5枚で選考。

3. 実施期間を限定していますか？

- Aいる 47館 (66.2%)
Bいない 20館 (28.2%)
Cその他 4館 (5.6%)

その場合の期間・理由をお答え下さい。

実施期間 実施日数

4. 実習生からの出願時期を決めていますか？

- Aいる 20館 (29.4%)
Bいない 35館 (51.5%)
Cその他 13館 (19.1%)

その実施時期は？

出願期日

- | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|
| 2月 | 1館 | 4月 | 4館 | 5月 | 4館 |
| 6月 | 2館 | 7月 | 2館 | | |

5. 貴館の博物館実習受け入れに対するお考えをお聞かせ下さい。

また、当連盟において学生からの出願時期や実施期間等の統一化に向けての話し合いが必要かの点もお聞かせ下さい。

〈希望者増大のため、負担大の悩み〉

- ・申込は年々増加の傾向があるのに対し、学芸員の人数も少なく、応対できない。
- ・指導スタッフ不足。
- ・対応できる学芸職員の数と時間的な問題。
- ・多人数には対応できない。

〈学生、大学への注文〉

- ・実習前に大学側で、博物館概論や美術の基礎知識を得て来てほしい。
- ・ただ学芸員資格を取るための学生が多く、大学自体で厳しく制限を行ってもらいたい。
- ・博物館実習の基本的部分は本来大学が行うべきだと考える。

〈学生を送り出す側から〉

- ・全国大学博物館学講座協議会と関博連との間で協議しては。

〈出願期間や実施期間の統一は、各館の事情があるので無理〉

平成4年度

自然科学部門研修会報告

平成5年2月10日(木)豊橋市大岩町の豊橋総合動植物公園内豊橋市自然史博物館において、愛知県博物館協会自然科学部門研修会が開催されました。参加者は、自然史系博物館だけでなく、歴史民俗系博物館や、さらに愛知県教育委員会の後援を得て学校関係からの参加もあり、23名となりました。以下その概要について報告します。

日程等

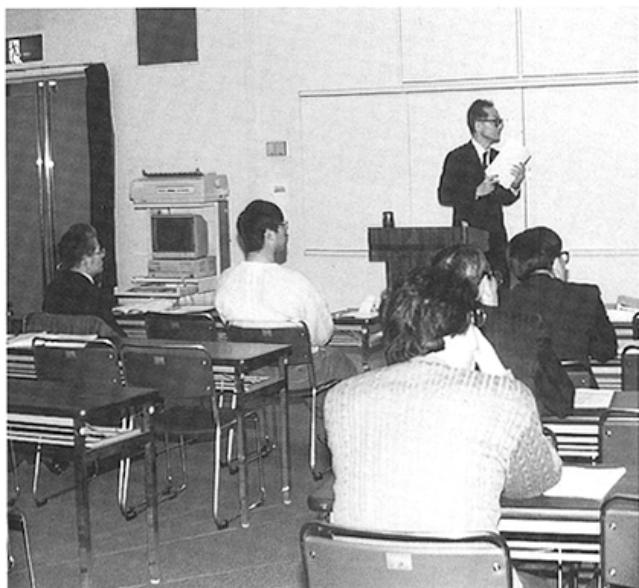
- 13:00~13:30 受付
- 13:30~13:35 開会あいさつ
- 13:35~15:30 「植物誌データベース」
 - ・講師：金井弘夫氏（国立科学博物館植物研究部部長）
- 15:30~15:55 質疑応答
- 15:55~16:00 閉会あいさつ

講師の金井弘夫氏の講義は、愛知県普通植物調査の事例をもとに植物資料のデータベースの構築法についてでした。

「愛知県における普通植物の分布」は、1991年に地域在住研究者の協力の下に行なった普通植物31種の分布調査のデータに基づいて、産地を経緯度の分の単位で記録し、分布図作成プログラムK L I P Sで処理して水平分布図、東西の垂直分布図で示したもの。この事例を通して、実際にどのような考え方で処理し、作業を行うか、そして標本に関してどのようなデータが必要となってくるか、具体的に話がありました。特に標本や資料の収集、保存について私たちの基本として心得なければならないことですが、いつ、どこで、だれが、は当然のことですが本人以外の第三者が活用できる情報の形態になっていなければならぬということです。たとえば、いつ(採集日)…という情報についても1963年4月1日を63年4月1日と記載されていると西暦なのか、昭和なのか判からない。また、どこで…についても地名だけの記載では範囲が広すぎ位置の特定が出来ない、したがって、他人が見て地球上のどの地点(何度、何分)に位置するのか位置情報が必要(さらに標高も)となってきます。金井氏の場合、調査票と同時に地図を添付し、調査地点に印を記入してもらいその資料をもとに経緯度をだしています。また、だれが…についても、その標本にあるいは情報資料の信頼度を判断するうえで重要になります。

この様にして得た情報をデータベースソフトに入れて分布図を作成します。

実際に分布図作成をするための地図データベース、処理プログラムの提供について、使用機種や原資料のデータの処理等注意事項について詳しく説明されたあとパソコンを操作して講義の理解を深めました。



質疑応答では、標本のデータベース化への取組について全国の状況、植物標本の整理方法、管理、収蔵等について活発な質問がなされました。

講義のなかで、当たり前のどこにでもある植物(普通植物)というのは、環境指標であるが、標本がない。突然なくなって環境の変化にきずくわけで、どうでもよいようなものも何年後にはなくなるかもしれない。とにかくどこにでもありそうなものも調査して資料を残しておくことが重要になってくる。また、繰り返し何度も調査する必要があるとの話は、自然史博物館員として常に心にとどめて実践すべきことと痛感しました。

博物館の資料、標本類の活用の上からデータベース化は、各館ともその必要性を感じていることと思います。既にその作業に取りかかっている館もあることと思います。今後こうした研修や情報交換の場をさらに設けていただけたら幸いです。

以上雑駁な文で報告とは程遠いものとなってしまいましたが、ご容赦ください。この研修会の開催にあたりご尽力下さった関係館ならびに職員の方々に、厚くお礼申し上げます。

(文責 凤来寺山自然科学博物館 加藤貞亨)

平成4年度

美術部門研修会報告

平成5年2月25日(木)、昭和美術館を会場に美術部門の研修会が開催され、42人の参加者は、3名の講師の方々から有意義な御講義を受けることが出来ました。以下その内容を報告します。

1 「名古屋の文化は大根文化」

愛知の文化と博物館への要望

講師：大野一英氏（名古屋もの作家）

名古屋の名物ういろ（う）の話に始まって、名古屋がなぜメジャーになれないかを揶揄たっぷりに説明いただきました。江戸時代からすでに「水戸に殿あり、紀州に入り、尾張に大根あり」とまで言われていたとのこと。根は深いですね。しかし、わが美術館のある稲沢市は、古くからその大根を多く産し「切り干し大根」という特産物もあるのですから、大根の肩を持たない訳にはいかない。手土産に千両箱のかわりに大根を持っていくのがなぜ悪い。大根の良さ、尾張名古屋の良さは、豊かさの意味が問い合わせられていく中で、評価が上がってくるのではないかでしょうか。というやたら楽観的で、現実的な手を打たないところが、またまた講師の方の批判の対象となりそうです。



2 「古典籍・古文書の取扱い」

典籍の書法学的説明。料紙及び古文書の略説。保管、取扱いにも言及。

講師：久曾神昇氏（愛知大学名誉教授）

印刷によって作られた本、中でも雑誌、週刊誌が本屋さんを席捲している昨今、ややもすると図書は消耗品でしかない感覚になっていたけれど、図書とは「紙又その類似品に、文字又は絵画などを、書写又は印刷などで表現し、又は表現できるもの」という講師の明解な定義によって、目からうろこが落ちました。「美術は人間の表現である」とは常々考えていましたが、もっと広く、さまざまな人間の表現について目を向ける必

要を感じました。最近話題になる手作りの本や、装丁の凝ったユニークな本も、新しい試みというより大量生産の過程で忘れ去られたものを取り戻す作業なのかも知れません。そしてその作業の中で、美術品と図書の麗しい結合である、かつての時書きや継色紙が、時代を経て違った形で出現するのではないかという希望が沸いてきました。



3 「博物館・美術館用建材について」

より安全でより美しい展示のために

(ミュージアムグラスについて)

講師：田中 真氏（旭硝子建材開発課）

昨年の空調の講義に引き続き、美術館を技術的に支えている方々の努力にはいつも頭が下がります。作品鑑賞の際に気になる展示ケースのガラスの継ぎ目が減少したのも、大きな一枚ガラスを作るという技術の成果なのです。ハードに負けないソフトをと自分に言い聞かせて帰途につきました。

報告は以上ですが、美術部門研修会が年々大人数になるにもかかわらず、主催される方々のこまやかな心配りに、この場を借りてお礼申し上げます。

(文責 稲沢市荻須記念美術館 学芸員 山田美佐子)

東海三県博物館協会交流研修会開催について

第18回東海三県博物館協会交流研修会を、愛知県博物館協会が当番県として、下記の如く開催致します。加盟館（園）各位の奮ってのご参加をお願いします。詳細は後日各館（園）宛に通知致します。

記

1. 期日 平成5年11月25日(木)～26日(金)
2. 会場 豊橋市自然史博物館

新規加盟館紹介

平成4年度に当協会へ加盟されました館の概要を、ここに紹介します。

日本独楽博物館

所在地 〒455 名古屋市港区小碓4丁目452-2

電話 (052) 383-9051

交通 名古屋駅から市バス(131系統)で中川車庫下車、徒歩15分

地下鉄東海通り駅(3番出口)から市バス(幹線9系統)で当知1丁目下車、徒歩10分

沿革 昭和55年、失われつつある「独楽」及び「独樂遊び」普及のため、サラリーマン生活のかたわら、兵庫県芦屋市に「藤田独楽資料館」を設立。57年に転勤のため、名古屋市に移転、「日本独楽博物館」として、現在に至る。名古屋市に移転した頃から本格的に小学校、幼稚園、保育園、子供会等、普及活動に入る。

施設 敷地面積 150m²

鉄筋3階建 展示室1階部分120m²

開館 9:00~17:00

休館日不定、電話確認要

入館料 無料

特色 内外の独楽、駄菓子屋玩具、世界の伝承遊び玩具の展示にとどまらず、実際に独楽のまわし方や、伝承遊びを教えていた。また、伝承遊びの玩具類の販売や貸出しも行っている。



お知らせ

このたび愛知芸術文化センター内に、新聞・TV等25社による中部芸術文化記者クラブ(MACC)が設置されました。

下記により取材を受けることができ、広報活動に充分意義あることと存じますので、活用方をお知らせいたします。

記

1. 取材日時 毎月20日 午後3時から
(土・日にかかる場合は前日・前々日)
2. 場所 中部芸術文化記者クラブ
(愛知芸術文化センター内、文化情報センター7階)
3. 被取材対象 人文系の美術館・博物館の活動に限る。
4. 持参資料 25部、写真はカラー25葉。
5. その他 ◎出席は各館1名、各催物の直接担当者に限る。

◎文化情報センターへは、地下1階防災センターで入館証を受け取り入場。

「愛知の博物館」No.58

発行日 平成5年8月9日

編集・発行 愛知県博物館協会

〒489 愛知県瀬戸市南山口町234番地

愛知県陶磁資料館内

TEL <0561> 84-7474

FAX <0561> 84-4932